



明治32年の創業以来、地域に親しまれてきた「勝崎館」の外観

明治三十二年創業の「勝崎館」は、石川県津幡町で長年愛されてきた老舗料理旅館です。旬の食材を使用した料理、薪で沸かすお風呂が自慢で、地元客からも強い支持を受けてきました。

行きます。聞きます。提案します
そして 伴走します
 ～商工会の支援事例～ **44**
絶対諦めさせない！度重なる激甚災害からの営業再開への徹底支援
 支援先：勝崎館
 URL：https://www.katsuzakikan.com
 支援者：羽咋市商工会 岡本和也（支援当時は、津幡町商工会所属）

特に、令和六年能登半島地震では、豪雨災害からの復旧後、間もなく発生したこともあり、一時は廃業を検討するほどの厳しい状況に追い詰められていました。このような中、商工会は、「創業百二十余年の「地域の宝」を守る」という強い決意

のもと、令和五年七月の豪雨による床上浸水に加え、復旧直後の令和六年能登半島地震による被災という、二度にわたる甚大な災害に見舞われました。

明治から続く老舗を襲った試練から「地域の宝」を守るという決意で支援



薪で沸かすこだわりのお風呂



浸水被害を受けた床の乾燥風景

この継続的な声掛けが、事業者のモチベーション維持につながりました。

また、地震の際は、他県における過去の震災復興事例を紹介し「必ず再建できる」という強い信念と決意を共有し続けました。

支援の第一歩は、被災直後の現場訪問による状況把握と支援情報の提供でした。不安を抱える事業者に対し、国や県、町が実施する複雑な支援策を整理し、逐次提供しました。

迅速な情報提供とモチベーションの維持
 補助金と資金調達の徹底支援により財務面の不安を解消

早期復旧に向けた大きな課題は、復旧費用の確保であり、再建の鍵は「なりわい再建支援補助金」の活用でした。

希望を繋ぎ通常営業再開へ
 これらの伴走支援により、宴会や宿泊を順次再開し、昨年十一月には通常営業として完全再開することが出

また、日本政策金融公庫や民間金融機関との金融調整により、事業継続に必要な再建資金の確保に目処をつけるなど、財務面での不安を一つずつ解消していき

また、同補助金の申請に向け、膨大な書類作成を支援するため、県の事業者支援センターへの同行や施工業者との打合せに同席し、徹底的な情報共有を図りました。

そこで、同補助金の申請に向け、膨大な書類作成を支援するため、県の事業者支援センターへの同行や施工業者との打合せに同席し、徹底的な情報共有を図りました。

また、二度の被災を経験し、乗り越えたことで、防災意識の高まりから、BCP（事業継続計画）の策定も行き、より強靱な経営体質へと進化しました。

この事例は、令和七年度石川県商工会優秀支援事例の優秀賞を受賞しました。

勝崎館
 〒九二九-〇三三七
 河北郡津幡町字庄イニ一
 TEL 〇七六-二八九-二二六一

担当経営指導員から一言
 ● 絶望的な状況下でも「またお客様を迎えたい」と前を向く店主の姿に、支援する側の私たちが勇気づけられました。
 ● 単なる「手続きの支援」ではなく、同じ目線で悩み、解決策を模索する「心の伴走」が、今回の再建には不可欠だったと感じています。

に寄り添い続けます。

また、二度の被災を経験し、乗り越えたことで、防災意識の高まりから、BCP（事業継続計画）の策定も行き、より強靱な経営体質へと進化しました。



勝崎館5代目当主の勝崎 猛さんと女将の勝崎 ゆきさん